

ぴんぐ ニュース

このニュースのバックナンバーが
ホームページになっています
<http://www.yuko-akagi.com/>
e-mail:yuko-akagi@nifty.com

くらしをつつむ住まいの設計

やさしさとゆとりのステージ

赤木裕子住宅設計室

赤木住研

赤木裕子住宅設計室工事部

〒300-1152 稲敷郡阿見町荒川本郷1343-85

TEL 029-842-3027 FAX 029-842-6601

マンションを快適に!

昨秋、マンションの全面リフォームを手がけました。夫婦二人+猫2匹のための住まい。トイレ・洗面・バスルームの位置はそのままですが、キッチンと和室を移動させて広がりをもたせました。

将来に備えて、車いすでも生活できるようになっています。狭いスペースを有効に使うため、玄関・トイレ・洗面を、壁の代わりに造付収納家具で仕切っているのが特徴。その他にも柱や梁の凸凹に合わせて、家具を造り、収納を充実させています。内装は自然素材を心がけ、木の香ただよう温もりのある空間となりました。

マンションのリフォームという、とかくクロス等内装の貼替のみと考えがちですが、間取りを変えることも可能ですし、床を全て平らにすることもできます。限られたスペースであればこそ、工夫をして快適な住まいづくりをして欲しいと思います。



リビングから
D・K玄関方面を見
たところ
床：コルクタイル
壁：パイン材
天井：ケイソウ土



リビング壁面
階段状のBOX
と、吊戸棚の
上はキャット
ウォーク

わが家について

阿見町 小田 淳子

11年前、赤木先生にお願いしてわが家を建てていただいた。予算が少ないこと、布団をいっぱい干せること、主人がオーディオ装置で音楽を聞くので、その音が近所迷惑にならないことなどの条件をお願いした。

主人と二人で頭を寄せ合ってプランを練ったが、どうしてもうまくいかず、先生にお願いしたのだが、出来上がったものはとてもすばらしく、主人も私も何もいうことがなかった。

安く建てるには壁が少ないほうが良いとのこと、2階の4人の子供のための部屋は、間仕切りのない21帖間となった。そして子供の成長に応じて間仕切るという計画だった。

しかし広々とした空間はせいせいとしていて間仕切る気になれず、結局11年後の現在、家具やロールスクリーンでプライバシーが少々保てるよ

うにして使っている。親にとっては子供の様子が伺えて有難いが、子供達はお互い音楽を聞くなどを我慢し合って暮らしているようだ。

壁はやはりコストを下げるために下地のベニヤむきだしたが、貼り方に工夫していただき、温かみがあってちょっとおしゃれで気に入っている。

現在は子供たちが大きくなり物が増えて収納が問題となっている。家具を買うより造り付けの収納にしたいが予算の点で実現困難である。困ったなあ。

究極の完璧プラン（配置も間取りも）の家に住んで主人も私も大満足だが、住み方を工夫すればもっと素敵になる家だといつも感じている。

ごめんね、先生。



当時界の子がわんはく盛りだったので、子供部屋は床もコンパネのまま！と、嬉しかったです。いたちら書きも自由で、のびのびと生活できたと思います。

ちょっとひとこと

テーマ：古い物 捨てる リサイクル

ナビゲーシヨンの戦い



私は60歳になり、新しい仕事にも挑戦しています。東京をはじめ地方にも行く機会が多くなり、地理もわからず地図を見ようとしても目の衰えから頼りにならず、いよいよカーナビをつけることにしました。

ところが肝心のナビが古いタイプだったのか、記憶の道と違う事もあり度々ナビと喧嘩をしてしまいます。そのため目的地に着くのに必要以上の時間を要してしまったりもありません。知らない土地で迷った時の不安感はいよいよ大きいものです。

そこで古いもの同士の意地の張り合いはやめようと、カーナビを新しくして、私もナビに従うように頭を柔らかくしました。

今では知らない土地に行くのを楽しみに走っています。古い知識も新しいものに調和させる事が必要かもしれませんね。

(栗山)

この年になると(私の いくつ?) ついつい「おはこうだった。」とさういいたくないです。反省!

捨てることの意義



ある雑誌で「捨てる」という言葉から連想することをアンケートした記事があった。「もったいない」と同時に「すっきり」「思い切り」をあげていたり、「リサイクル」と同時に「過去」「身軽」をあげていたりという結果に、「捨てる」という一見単純な作業がじつは複雑な心理を秘めているというものだった。

たしかに捨てるとなるといろいろなジレンマが邪魔をしてなかなか捨てられない。だが、捨てる=ゴミとする発想を転換して、何度も考え悩みながら物を選別し、『自分や家族にとって本当に必要な物』の確認作業とするならば、まったく違った作業となるのではないだろうか。そしてこの作業によって安易に物を買うことへのためらいや、本当に必要なものを大切にする気持ちがうまれてくるのではないかと思った。

(佐藤)

「もったいない」と考えるならば、「余分なものは売らない」私もそう思います。でもおもしろい?



小田邸

シンプルなデザインでコストを抑えました
1992年7月竣工
ニューハウス掲載



母のおやつ



子供の頃、学校から帰るといつも母の手作りおやつが私を待っていてくれました。…薩摩芋の茶巾絞り、甘夏や八朔の皮の砂糖漬け、ドーナツなど…どれも素朴でとても美味しく、帰宅するのが楽しみでした。

思えば、母の料理には絶対といって良いほど、欠かせない物があります。それは新聞紙。揚物の油取り、砂糖をまぶすための台紙、登場回数は数え切れません。その中でも、一番印象に残っているのは、蒸しパンでの登場。ホカホカの蒸しパンには、底から側面にかけて、ゴシック体の文字がプリントされていました。

このころ、この洒落っ気のなさが嫌で「せめてワラ半紙にしてくれ」と思ったものですが、お正月に帰省した姉と「ほんのり残るインクの匂いを嗅ぎながら食べたあの蒸しパン、新聞紙が良かったよね」と、懐かしく話してしまいました。

(根本)

新聞紙の毎月法はたくさんありますね。私にはずっくのおやつの思い出がうらやましいわ♪



21帖の子供室・・トップライトもついて明るい!
柱と梁を利用して、簡単に間仕切れるように考えました。

スタッフ

◆あがぎゆうこ

◆さとうけいこ

◆ねもとゆきよ

◆くりやまとしほこ